

【事例 H29-60】大分県

若者向け自殺予防対策事業

【概要】大分県が主催、NPO 法人社会貢献ミュージカル振興会が企画・制作した青少年自殺防止ミュージカル「つまづいても」を上演した。「つまづいても」は大学生の主人公が就職活動をきっかけにうつ状態となるが、周りの人の支えのおかげで立ち直ろうとする内容となっており、大学生、専門学生の若者を中心に、自分の大切さや、周囲の人の変化に気づきを向けることを学んでもらう内容となっている。若者だけではなく、一般市民も参加できるよう県 HP 等で周知した。また、専門学校長、教員等を対象とした若年者向け自殺予防対策研修を行い、若年層のSOSの出し方、受け止め方についての講演も行った。

【大綱の分類】

2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
4. 自殺対策に関わる人材の確保、養成及び資質の向上を図る
5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
10. 民間団体との連携を強化する
11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】

- 基本2-3) 学校教育・社会教育に関わる人への研修
- 基本3-2) 市民向け講演会・イベント等の開催
- 基本5-1) SOSの出し方に関する教育の実施
- 重点1-2) 若者の抱えやすい課題に着目した学生・生徒等への支援の充実

【事業実施年度】2017年度

【事業予算】89,104円(2017年度)

【利点】

- ▼大学生、専門学生という就職活動を控えた自殺リスクが高い層に自殺問題について啓発できる
- ▼ミュージカルを通して自殺問題について伝えるため、心に残りやすい
- ▼学生だけではなく、校長・教員向けにSOSの出し方、受け止め方について講演を行うことで、ゲートキーパーとしての役割が期待できる

【実施に至るまで】

若年層への自殺予防をミュージカルを通して行った理由

- ① 若年層では、研修や講演等では印象に残りにくい可能性がある
- ② 若手俳優、若手女優がミュージカルを実施することで、若年層の関心を引くことができる
- ③ ミュージカルを見た学生から他の学生へ口コミによる広がりが期待できる

計画を立てる上での工夫

- ① 当県の自殺対策連絡協議会委員がNPO 法人社会貢献ミュージカル振興会と繋がりがあったため、仲介的な役割を担ってもらった
- ② 幅広く周知を行うため、各大学、専門学校へ案内文を送付するほか、各市町村とも連携し、それぞれの市報への掲載を依頼した。

- ③ また、校長、教員向けのSOSの出し方、受け止め方の講演については、専修学校各種学校連合会が実施する研修会の中で時間を確保してもらうことで、少ない費用で効果的に研修会を実施することができた。

具体的な内容

▼ミュージカル

①実施時間

- ・より多くの参加者を確保するため、昼の部、夜の部に分けて実施（120分／1回）

②内容

- ・大学生が就職活動をきっかけにうつ状態となるが、周囲の支えによって困難を乗り越えていく、という内容（劇団側が企画）
- ・ミュージカルの来場者に対して啓発グッズ（ボールペン、ティッシュ）を配布した

▼講演会

①実施時間

- ・青年の居場所感とSOSの出し方・受け止め方 60分

②講演の内容

- ・校長、教員向けに学生の自殺の特徴や、対応の方法などについて講演を行った（講師：大分県立看護科学大学 影山隆之 教授）

【成 果】

- ▼ミュージカルの来場者は昼の部、夜の部を合わせて約 200 人（参加者のうち、10～20代は約 20%）
- ▼講演会の参加者は 27 人
- ▼事後のアンケートでは良い評価が 9 割近くを占め、満足度が高かった
- ▼講演会では、普段扱うことが少ないテーマについて学ぶことができた、という意見が多く、満足度が高かった

【補 足】



【課 題】

- ・10代、20代の参加者が想定よりも少なかったため、次回ミュージカルを実施する場合は、大学などで行うとより効果が高い

【事業種別】	普及啓発、研修実施
【準備期間】	30日
【人数】	8名
【人口規模】	1,150,000人
【財政規模】	¥630,000,000,000-
【自治体負担率】	50%、34%
【事業対象】	学生、教員、校長など
【支援対象】	様々（学校者）
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	大分県福祉保健部障害福祉課 TEL：097（506）2741 NPO 法人社会貢献ミュージカル振興会 TEL：042（421）1154 http://www.musc-jp.org/

【参考資料・文献】

(ア) NPO 法人社会貢献ミュージカル振興会 HP